

## ギフチョウ蛹の発見 竹内 隆

私達「加古川の里山・ギフチョウ・ネット」では、「生きものを救うこころみと里山の保全」をテーマに、環境庁が絶滅危惧種Ⅱ類に指定しているギフチョウの保護をめざしています。

過去7年間の活動のなかで蛹を発見した例が5回あり、そのうち2回羽化の瞬間を観察することができたので、状況を報告します。

冬場林内を歩きやすい1~3月、カンアオイの新たな自生地を回ります。その時期に蛹を発見することが多く、手で動かすことのできる20~30センチまでの石が多いようです。

その他、立ち枯れのコナラの木の中1回、地面の穴の中(直径10センチ)1回、落ち葉の下1回です。発見場所から1メートル以内にすべてにカンアオイの株がありました。いずれも、簡単には発見できません(写真1~6)。

### 蛹 発見場所

表1

年月日	蛹発見場所	羽化(時刻)	撮影・観察	周囲の状況	地区
1998年4月5日	石の下	○10:03	○	コナラ中心の雑木林	A
2001年4月	立ち枯れ木の中	×	×	〃	B
2002年4月	石の下	×	×	〃	C
2003年4月9日	石の下	○不明	×	〃	C
2004年4月3日	石の下	11:00	○	〃	C



写真1 (A地区) 1998/4/5



写真2 (A地区) 1998/4/5



写真3 (B地区) 2001/4/1



写真4 (B地区) 2001/4/1



写真5 (C地区) 2003/4/9



写真6 (C地区) 2004/4/3



写真7

蛹は見つけても穴があいていることが多いです。地表の穴で見つけたときは、蛹の中からダンゴムシと思われる小さな虫が這い出てきました(写真7)。

2004年の調査のときは、蛹がクモの糸で覆われていて中からクモが出てきました(写真8, 9)。



写真8 (C地区) 2004/4/3

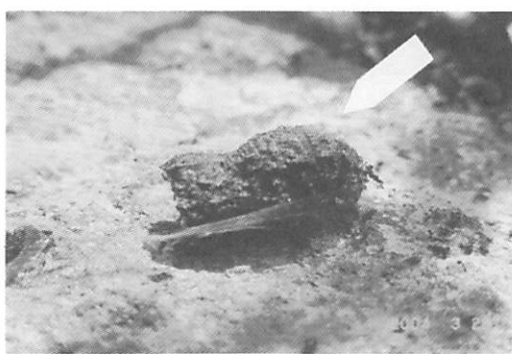


写真9 (C地区) 2004/4/3

### 生存率

2004年の調査の時、3名で蛹を探したC地区では、5個の蛹をみつけ内1個だけ生存していました(生存率20%)。

過去の蛹発見で羽化したのは5例中3例でした(羽化率60%)。

自然界では(20%×60%=12%)となりギフチョウは蛹になっても1~2割しか羽化しないのでは、と考えられます。ギフチョウの生存率が卵から成虫になるのに、3~7%といわれるのがよく分かります。

### 蛹の羽化観察のポイント

- 1, 蛹は突然羽化を始めるので、蛹から目をそらさずじーと見ていることが大切です。トイレは駄目です。時間は午前8時~12時を目安におくと良いと思います(例外で午後になることもあるそうです)。
- 2, 過去5回の蛹発見で2回羽化しなかったのは、自然状態で死んだと考えるのが正しいと思われますが、1つ気になるのは、2回とも撮影しやすいように、木の皮を剥がした状態にしたり、石を持ち上げたりしたため直接太陽の光が蛹に当たる時間が何度かありました。そのため蛹が乾燥したか、温度が上がりすぎたことが考えられます。2003年と2004年はそのあたりを注意して太陽が直接当たらないようにシート使ったりして工夫しました。太陽の光は直接あたらないようにしたほうが良いと思われます。
- 3, 蛹は一般には羽化の直前まで他の蝶と違って変化が分かりにくいといわれていますが、2004年の観察では、1週間前と比べて明らかに変化がありました。

羽化の1時間前、蛹の腹部の割目部分が伸びており隙間が黒光りしていました(写真11)。

今回の腹部の変化は羽化の日時が分かる1つの目安になるのでは、と考えています(写真10, 11)。

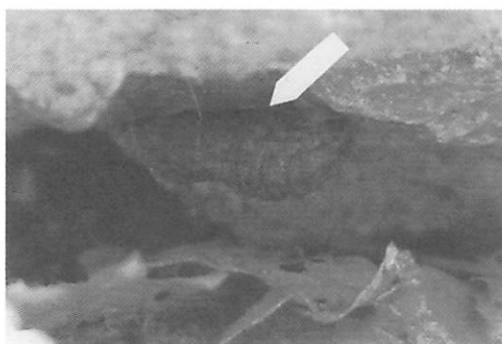


写真10(C地区) (羽化1週間前) 2004/4/3

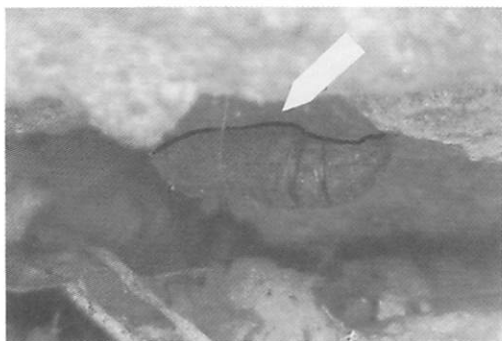


写真11(C地区) (羽化直前) 2004/4/3

(TAKEUCHI TAKASHI)

加古川市志方町志方842-2)